絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2023-秋

No.103

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。

月光ブルーモスク　イスタンブール　2001年

【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人
文化財保護・芸術研究助成財団
FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

日本のユネスコ世界遺産7

原爆ドーム

（旧広島県産業奨励館）

ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ　　撮影・仙波志郎

幾多の紆余曲折を経て原爆ドームが、世界遺産として登録されたのは、一九九六年のことである。ポーランドにあるアウシュヴィッツ・ビルケナウのナチスドイツの強制絶滅収容所と並び「負の世界遺産」と呼ばれる。

原爆ドームは広島県産業奨励館という建物であった。一九四五年八月六日、北マリアナ諸島のひとつ、テニアン島の基地から飛び立ったアメリカ軍のB－29爆撃機「エノラ・ゲイ」は、午前八時十五分十七秒に広島市上空で原爆を投下。その四十三秒後、この原爆ドーム付近の上空六百メートルあたりで史上初の核兵器は炸裂したという。

原子爆弾の威力、結果の悲惨さは、これまで様々な場で喧伝されてきたとおりである。

原爆ドームは世界遺産登録基準の〔Ⅵ〕「顕著で普遍的意義を有する出来事――」を満たしているとして登録された。私たちはその意味を十分反芻し、二度と再び広島の悲劇を起こさせないよう世界に訴えてゆく義務がある。

原爆ドームをめぐってはこの二つの課題がある。一つは経年劣化と災害からドームを守ること。もう一つは人々の心の中に広島の事実を風化させないことである。

博物館予算の充実に向けて

今年の一月、ある月刊誌に、文化財予算が不足している現状の問題点を訴える拙稿を掲載してもらった。その主な内容は、ロシアによるウクライナ侵略に端を発したエネルギー価格の高騰を受けて国立博物館の運営費がひっ迫していること、特に博物館の最も重要な使命である文化財保存のための修理費が不足していることを世に訴えて、国民の皆さまのご理解・ご支援をお願いするというものであった。

この月刊誌発売直後から、国立博物館の運営や文化財の保存について心配して頂いた多くの国民の皆さまからの東京国立博物館（東博）へのご寄付が殺到し、一時は寄付額が昨年の同時期と比較して倍増する状況になった次第である。このような心ある方々の思いに対して、心からの御礼をこの場をお借りして申し上げます。

また、最近では同じ上野で隣組の国立科学博物館がクラウドファンディングを開始したところ、目標額の一億円を僅か一日で達成し、九月上旬現在、七億円以上の寄付が集まったと聞いている。このことは、国立博物館が置かれている厳しい環境が世の中で共有され、支援の輪が広がっていることを物語っており、誠に喜ばしい限りである。

話を東博に戻すと、ウクライナ侵略前の二〇二一年度の東博の年間光熱費は約二億円であり、これは例年ベースの水準であったが、ウクライナ侵略後の二〇二二年度では約四億円と倍増しており、このことが博物館の運営費のひっ迫を招く要因となっている。他方、昨年（二〇二二年）は東博創立の一五〇周年という記念すべき年だったので、昨秋に実施した国宝展への入場者は三十五万人を超えるなど、例年と比較して多くの自己収入があったため、光熱費の増をたまたまカバーできる幸運に恵まれた次第である。しかし、ウクライナ戦争はいまだ収束に向かう気配はなく、光熱費問題が今後とも大きな課題になることは間違いない。

このように東博の先行きに不安を感じていたところ、今般、朝日新聞が八月十二日の社説で「博物館の苦境　国は当事者意識を持て」とのタイトルで、博物館への国の予算を充実するよう訴えたことを知り、大いに勇気づけられた。しかしながら、国の財政状況は依然として厳しく、しかも防衛予算や少子化対策予算の増額という大きな政治課題がある以上、すぐに博物館予算が増額されることを期待するのはなかなか難しいだろう。

そこで、まずは自らの努力で収入を伸ばすことが求められている。最初は来館者の増加であり、そのためには常設展や特別展の中身をこれまで以上に魅力あるものにする必要がある。去る九月三日で閉幕した特別展「古代メキシコ展」では、展示品が本邦初公開の「赤の女王のマスク」など貴重な文化財のオンパレードだったため、お陰様で三十二万人以上の入場者があった。これからも、今秋予定されている特別展「やまと絵」など魅力ある展覧会が続く予定である。

また、コロナ禍の収束でインバウンドが復活しているので、羽田空港国際ターミナルのエアポートガーデンでのショップ開設など外国人へのアクセスを強化している。さらに、これまでは比較的高齢者層のリーピーターが多かったことを踏まえ、より若い世代などこれまで東博とはあまり縁がなかった潜在的な顧客層を発掘するため、世界的に有名な建築家の隈研吾氏や、生け花の池坊専宗氏など各界のインフルエンサーを東博アンバサダーとして新たにお迎えし、発信力の強化を目指している。これらの取り組みにより、一層の来館者増に向けて頑張りたい。

次に、寄付金集めである。昨年は東博もクラウドファンディングを実施して、有名な「見返り美人」などの修理費を一千万円の目標額を超えて集めることが出来た。現在は、寄付会員制度への加入の促進に努めている。この寄付会員の法人部門で一番高いカテゴリーは年会費一千万円であるが、制度創設以来、加入者はなかったところ、昨年の館長就任後に各方面に働きかけをした結果、今年に入って第一号の加入が実現した次第である。

今後とも国民の皆さま方からの応援も受けながら、博物館の自己収入を増やす努力を続けるとともに、国や自治体から一層の財政的な支援を頂けることを切に願っている。

東京国立博物館
館長
藤原 誠
（ふじわら・まこと）

薬師寺 国宝・東塔解体大修理落慶法要を終えて

国宝にして、ユネスコ世界遺産。
薬師寺の象徴でもある東塔。
十二年の歳月をかけて新たな
生命をふきこまれた東塔は今……。

薬師寺 執事長
大谷 徹奘
（おおたに・てつじょう）

東塔は『信仰心』の集まり

この小見出しの言葉は、十二年にも及ぶ国宝東塔解体大修理（以下・東塔大修理）に工人として携わった、薬師寺寺工・石井浩司棟梁が語ってくださったものです。

薬師寺国宝東塔解体大修理落慶法要（以下・落慶法要）の打ち合わせをしている時でした。私が「東塔の作業では何を感じられましたか」と尋ねると、「東塔は『信仰心』の集まりです。東塔大修理の作業を勤めていく中で、一三〇〇年前は間違いなく現代よりも格段に機材も技術も劣るのに、これだけの塔が建立できたのは、お釈迦さまのお舎利を祀る塔を建てさせていただくのだという強い『信仰心』だと思うようになりました。それも身を投げ出す程の覚悟ある『信仰心』だと実感しました」と熱く話されました。

落慶法要を終えた私も「東塔は『信仰心』の集まり」であると確信した一人です。（その理由はのちほど）

薬師寺国宝東塔大修理落慶法要が厳修される

令和五年四月二十一日（金）、午前十時、春四月とは思えない強い日差しのもと、五日間にわたる薬師寺国宝東塔解体大修理落慶法要が厳修されました。

この度の大修理は、阪神淡路大震災、東日本大震災を受け、薬師寺堂塔の耐震検査が進む中、東塔の心柱内部が最下層よりおよそ三メートルが虫害と腐食により空洞化、また基壇の不同沈下などが確認され、このままでは大地震には耐えられないという調査結果に基づくものでした。これにより瓦替えや、木部の一部を修理するだけでなく、東塔の全てを解体すると同時に、今日まで使用されてきた基壇を保存、その上に新たな基壇を設け、使用されていた部材を出来得る限り活用して、再び塔を建てるという大規模なものとなりました。もちろん創建以来初めてのことです。

この東塔大修理に伴い有識者による「国宝薬師寺東塔保存修理事業専門委員会」が組織され、委員長には当誌に東塔に関する寄稿もされた、古代建築研究の第一人者の鈴木嘉吉先生（残念なことに昨年十二月に身罷られました）が就かれ、強い指導力のもと作業は進められました。

工期は平成二十一年（二〇〇九）から令和二年（二〇二〇）の足掛け十二年、更に三年間コロナ禍によって落慶法要は延期せざるをえませんでした。

薬師寺寺工　石井浩司棟梁

※「絲綢之路」2011年一新春 №65掲載「国宝薬師寺東塔の解体修理」

東塔の歴史

薬師寺は西暦六八〇年、第四十代・天武天皇が建立を発願、六九七年、第四十一代・持統天皇がご本尊・薬師如来さまのご開眼をなされてより、栄枯盛衰を繰り返しながら、一三〇〇余年の法灯を守り続けております。

特に室町時代、足利十二代将軍の義晴をめぐる享禄元年（一五二八）の戦火に巻き込まれてからのおよそ五百年間は、かなり厳しい状態でした。竜宮にもたとえられた壮麗な伽藍は東塔のみとなり、金銅製が故に焼失を免れたご本尊・薬師三尊像も、三年近く雨ざらし状態、やっとのことで建立された仮金堂も、昭和初期までには雨漏りの絶えないお堂となっていました。

会場の様子

お写経勧進による白鳳伽藍復興

そのような中、昭和四十二年（一九六七）高田好胤和上が管主に就任されると同時に、歴代住職の念願であった金堂再建を発願されました。

「薬師寺は国家の安穏と国民の幸せを祈るお寺です。その御本尊をお祀りする金堂再建は、国民一人ひとりの清らかな心をお写経に込めていただいて成し遂げたい」と呼びかけられ、当時一巻千円のお写経を、百万巻勧進することによって、建築費一〇億円を賄うという「百万巻お写経勧進による薬師寺金堂再建運動」に着手されました。

「夢だ」、「空想だ」と揶揄されるも意に介さず、不惜身命の精神で全国津々浦々を勧進行脚、僅か八年間で百万巻のお写経が勧進され、昭和五十一年（一九七六）に金堂が再建成されました。

その熱意はやがて「お写経勧進による白鳳伽藍復興」へと広がり、西塔、中門、回廊、僧房、大講堂、食堂と次々と堂塔が再建されました。今回の東塔大修理は国・県・市からの補助、個人、企業からの支援を受けると共に、二十万巻を超えるお写経勧進により成就できました。

そして落慶法要は、昭和四十三年（一九六八）に、お写経勧進が始められて五十五年の節目に重なりました。この間に納められたお写経は八八〇万巻を超えています。

「東塔は『信仰心』の集まり」と私が実感した理由

ありがたいことに落慶法要の会奉行（司会進行役）という大役の栄を賜りました。落慶法要は一日二、〇〇〇人、五日間で一〇、〇〇〇人もの方が遠く北海道、東北、九州、沖縄から駆けつけてくださいました。開門が八時三十分であるにもかかわらず、七時頃からお待ちになられる方もおありでした。お迎えの挨拶に立たせていただいていると、参列者からは「良かった」「やっとですね」と、異口同音に沸き立つ思いを、笑顔と共にお声掛けくださいました。

法要はおよそ二時間。初日の猛暑と最終日の小雨の天候は、屋外での儀式には厳しくもありましたが、途中で離席される方は一人もおられませんでした。それは感動を越えて感激でした。会奉行として壇上から全てを見渡せる勤めをいただいたお陰で、この深い『信仰心』を目の当たりにでき、『信仰心』に溢れた参拝者のお姿に、高田好胤和上が身命を賭して勤められた「心の種まき」の結実を見ました。

古代の工人たち、この度の落慶に思いを寄せてくださった方々が、『信仰心』を抱き東塔と向き合ってくださったように、これからも人々の『信仰心』が、東塔を護り続けてくださると確信しています。

合掌

【追記】　会奉行は儀式会場の最終確認者でもあります。そこで私の一存で祭壇に高田好胤和上と鈴木嘉吉先生の写真を安置させていただきました。お二方がご健在でしたらどんなにお喜びかと思うと、目頭が熱くなりました。

祭壇。写真（左）高田好胤和上、（右）鈴木嘉吉先生

和楽の美――夏の日の源氏物語

今や恒例の演奏会となった『和楽の美』。邦楽の各流派が一堂に会する演奏会。東京藝術大学なればこそ実現した演奏会の舞台裏は……。

去る令和五年七月三十日（日）、真夏の酷暑の日、『和楽の美 源氏物語 夕顔・須磨の巻』（邦楽科・演奏芸術センター共催）が東京藝術大学奏楽堂にて催行され、多くのお客様にお集まり頂き、盛会裏に終了致しました。本年は昨年の和楽の美『源氏物語 葵上（あおいのうえ）・賢木（さかき）の巻』に続く源氏物語第二弾で、内容、体裁ともさらに充実し、一層華やかな催しとなりました。どちらも邦楽科各専攻（ジャンル）にて源氏物語に由来する古典曲を取り上げ、あるいは創作し、それを絵巻物として連綿とお客様にご覧頂くという趣向です。その各ジャンルの橋渡しをする進行役に、昨年は歌舞伎界から中村雀右衛門丈、本年は松本幸四郎丈をお招きし華を添えて頂きました。また本年は能楽観世流宗家観世清和氏、宝生流宗家宝生和英氏の両ご宗家のご出演を得、一層豪華な布陣による舞台となりました。それもこれも邦楽の現況に深いご理解を頂き、毎年『和楽の美』催行に当たって力強いご支援を賜りました文化財保護・芸術研究助成財団様のお陰と、この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、その『和楽の美』もその前身の催しも含め今回で二十二回目となりました（第三回から『和楽の美』のタイトルを付けています）。設立当初の第三回から常勤教員として参加され、長く「制作統括」の任にあたられた箏曲山田流の萩岡松韻先生に、『和楽の美』の理念や目的を中心にお話を伺いました。

『和楽の美』の理念と目的

藤波　邦楽科には教員が出演する場として従前より「定期演奏会」があるわけですが、それとは別に『和楽の美』を立ち上げられました。その目的やコンセプトについてお伺いします。

萩岡　邦楽科は、東京藝術大学が東京音楽学校の時代から現在まで脈々と続く由緒ある科ですが、現代の世の中を見れば身の回りの音楽からメディアの露出まで、圧倒的に西洋音楽が占めています。人々が日本の伝統音楽に触れる機会が非常に少ない。その中でいかにして邦楽に足を運んでもらうか、考えて工夫しなければなりません。いきなり難しく長いものをお見せしても受け入れられない。そこで「伝統音楽を絵巻物にしてお見せする」という手法を取りました。能にしても※半能や※※仕舞という形でお見せしてファンを作る。各ジャンルでテーマに当てはまる古典があればそれを、ない場合には新作を作ってお見せする、というやり方でファン獲得のため二十二回を重ねました。

藤波　一昨年の「古の花（いにしへ）」は古典の出し物が中心でしたね。

萩岡　そういう流れの中で、この辺で一度古典をお見せしたらどうか、ということで各専攻とも「古の花」で古典の大曲に取り組んでもらいました。古典を観て分かる、楽しむ、そういう日本人の感性をくすぐる手段として始まったのが『和楽の美』であり、古典を観るアプローチとしての役割を果たしているわけです。

藤波　昨年と今年は「源氏物語」でしたが。

萩岡　今回は、古典文学の名作ですが難しい題材の「源氏物語」に手を染めました（笑）。昨年の前編には雀右衛門丈、今年の後編には幸四郎丈、さらに今年は能の観世・宝生両ご宗家に出演頂き、他の催しではまず見られない構成、キャストとなりました。

藤波　今後の『和楽の美』の展望についてお伺いします。

萩岡　お話してきましたコンセプトで、邦楽ファンを作り、邦楽を分かって頂き、また大学としてそうした理念のもと学生を世に輩出してきました。また催しのスタイルとして、邦楽といっても聴覚のみならず能や日本舞踊など視覚にも訴え、さらに洋楽のオーケストラも入り、というスタイルの額縁を作りました。そこにさらに美術担当として美術学部の各科、油画・日本画から建築まで一通りの専攻と組み、共に創り上げてきました。最近では映像ジャンルにも協力を頂き、お客様がさらに見やすく、足を運びやすい催しにしています。

邦楽ファンを作る取り組みはまだまだ十分ではありません。私共は今後ともこの取り組みに注力して参ります。皆様方には引き続き今後とも『和楽の美』をご後援くださいますようお願い申し上げます。

能楽観世流シテ方
東京藝術大学音楽学部
邦楽科准教授
藤波 重彦（ふじなみ・しげひこ）

これからの『和楽の美』について

萩岡先生は来年三月に定年を迎えられます。お話を伺って、私共残った者の重責をひしひしと感じているところです。

萩岡先生退任後、邦楽科は大きな推進力を失うことになりますが、それに負けず『和楽の美』創設の初心を忘れず、邦楽の発展に寄与するべく、この執筆を終えながら覚悟を新たにするものです。

筆者略歴

一九六四年生まれ。能楽観世流シテ方の故・藤波重満の長男。
父および二十六世観世宗家・観世清和に師事。
慶応義塾大学および東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業後、二〇一九年より准教授。二〇二三年より邦楽科主任。公益社団法人能楽協会理事。一般社団法人観世会理事。
重要無形文化財総合指定保持者（一般社団法人日本能楽会会員）。

※半能（はんのう）：能の略式演奏の一つ。前後二場から成る能の、後半のみを演ずること。
※※仕舞（しまい）：能の略式演奏の一つ。謡だけで囃子を伴わず、シテ一人が紋服・袴で能の一部を抜粋して舞うもの。

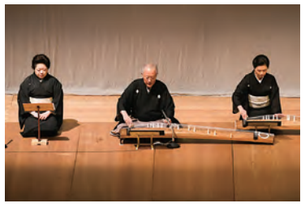
『和楽の美』で観る『源氏物語』の世界

2022　清元・日本舞踊　光源氏野宮（ののみや）詣

2022　能楽観世流　半能　野宮

2023　長唄・邦楽囃子　夕顔

2023　フィナーレ



2023　箏曲山田流　須磨恋慕　萩岡松韻ほか

2023　能楽宝生流　半能　須磨源氏

2023　雅楽　青海波

2023　生田流箏曲・尺八　平安春の宴

『和楽の美』上演記録（年度）

1.	2002	平成14年	熊野
2.	2003	平成15年	竹取物語
3.	2004	平成16年	賢治 宇宙 曼荼羅（これ以降『和楽の美』表記あり）
4.	2005	平成17年	邦楽叙事詩 スサノヲ
5.	2006	平成18年	今昔物語
6.	2007	平成19年	新曲 浦島
7.	2008	平成20年	邦楽で綴る 平家物語 前編
8.	2009	平成21年	邦楽で綴る 平家物語 後編
9.	2010	平成22年	南都の夢 悟空ひとり旅
10.	2011	平成23年	悟空・韓国（からくに）めぐり
11.	2012	平成24年	悟空と九尾の狐
12.	2013	平成25年	弁財天縁起
13.	2014	平成26年	静と義経を巡って 義経記
14.	2015	平成27年	邦楽絵巻 ヒミコ
15.	2016	平成28年	邦楽絵巻 大和は国のまほろば
16.	2017	平成29年	源平盛衰 有為転変の賦
17.	2018	平成30年	安土桃山 信長・秀吉 英雄譚
18.	2019	令和元年	大江戸歌舞絵巻
19.	2020	令和２年	（観世能楽堂にて無観客配信）
20.	2021	令和３年	古の花
21.	2022	令和４年	源氏物語 葵上・賢木の巻
22.	2023	令和５年	源氏物語 夕顔・須磨の巻

地震とイタリアにおける文化財建築の保護

日本と同じ地震国であるイタリア。多くの貴重な文化財建築を有する同国では、どのような対策をとっているのだろうか……。

名古屋市立大学
大学院芸術工学研究科教授
青木 孝義
（あおき・たかよし）

イタリアの文化財建築

イタリアには、ローマのパンテオン（ドームの平面形状：円形、二世紀建設）、サン・ピエトロ大聖堂（ドームの平面形状：円形、十六世紀建設）、フィレンツェのサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂（ドームの平面形状：八角形、十五世紀建設）など、組積造でできた文化財建築が数多く残っています。これらは宗教建築として建設され、それぞれの時代・都市・様式、そして文化を代表する重要建築です。これらの文化財建築は、内径三十～四十メートル以上の組積造ドームをもつ、優れた空間構造としても位置付けられています。

一方で、日本ではほとんど知られていませんが、イタリア北西部ピエモンテ州モンドヴィ市近郊のヴィコフォルテ教会堂（ドームの平面形状：楕円形、十八世紀建設、写真1）も、一八八〇年に国宝に指定された世界最大規模の組積造楕円形ドームをもつ優れた空間構造物です。しかし、これらの大規模なドームをもつ歴史的な組積造建築のなかには、ドームの力学特性と施工方法に不明点を残す例が少なくなく、保存や補強の面からその解明が切望されています。また、シチリアのアウグスタにある飛行船格納庫（一九一七年建設開始、写真2）は、恐らく世界中で現存する鉄筋コンクリートで作られた唯一の例ですが、日本ではほとんど知られていません。イタリアには、この他にも歴史的な組積造建築やRC建築が数多く残っています。

写真1　ヴィコフォルテ教会堂（組積造）：外観、楕円形ドーム、ひび割れ図（Garro）

写真2　飛行船格納庫（鉄筋コンクリート造）：外観、ひび割れ状況、補強工事後の内観

イタリア中部地震

二〇〇九年四月六日三時三十二分（現地時間）、ラクイラ（ローマから北東に約九十五キロメートル、人口約七万人のイタリア共和国アブルッツォ州ラクイラ県のコムーネ（自治体）のひとつで、ラクイラ県の県都かつアブルッツォ州の州都、図1）で発生したM6.3（※USGS）の地震およびその直後の最大余震（四月六日四時三十七分、M5.1）により、三百八人の死者、千人以上の負傷者、一万から一万五千棟の建物が被害を受けました。アペニン山脈に沿って北西－南東方向に活断層が複数存在し、今回被災したイタリア中部アブルッツォ州は、一九一五年にアヴェッザーノ地震を経験し、イタリア国内でも地震危険度の比較的高い地域です（図1）。

この地震により、学校や病院などの公共施設、生産施設や兵舎、私有建物に加え、教会堂などの文化遺産建築が大きな被害を受けました。イタリア政府文化財省は、アブルッツォ州にある約一千件の教会堂のうち約二百件については何らかの補強が必要だということを調査するとともに、四十五の被災文化遺産建築のリストを作成し、その修復・補強は急務となっていました（写真3）。

そして二〇一六年八月二十四日、十月二十六日、三十日にイタリア中部ラツィオ州アックーモリで発生したM6.2（USGS）の地震により、死者約三百人、一万棟以上の建物が被害を受けました。

図1　イタリア中部地震と地震危険度

写真3　アニメ・サンテ教会堂：被災直後と応急処置後

文化財建築の保護

被災後の文化財建築の保護（応急処置）方法としては、壁面の転倒を防止するための方杖（写真4(a)）、面外方向崩落防止のための形鋼や木材による補強（写真4(b)、4(c)）、柱の爆裂を防止するための荷造り用PPバンドによる柱巻き（写真4(d)）、ドームの崩壊を防ぐためのワイヤー巻き（写真4(e)）、アーチ等の壁面開口部の崩落防止（写真4(f)）に大別でき、イタリアでは、ラクイラ地震を契機に応急処置方法がまとめられました。一方で、一九七〇年代以降に文化財建築に対して行われたRC補強は、既設との接合が不十分であったり、逆に質量が増加したりしたことにより被害が増大したと推察され、これを受けてイタリアでは、剛性の大きく変わらない材料を用いて補強、補修が実施されています。

(a) 方杖補強　(b) 面外方向補強　(c) ワイヤー補強

(d) PPバンド巻き　(e) ワイヤー巻き　(f) 開口部補強

写真4　文化財建築の保護（応急処置）

二〇一〇年に、ラクイラの文化財建築（市民の塔、サン・シルヴェストロ教会堂、サンタゴスティーノ教会堂ほか、図2）の補強前、補強途中における構造的安定性、補強効果を検証するための静的・動的モニタリングシステムを設置し、モニタリングを開始しました。

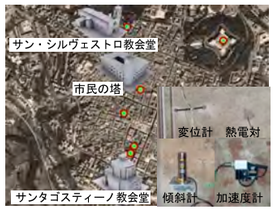


図2　ラクイラのモニタリング対象建物とセンサー

事後保全から予防保全へ

ヴィコフォルテ教会堂の場合、一九八六～八八年に実施されたフレスコ画の修復以降、フレスコ画に大きな損傷は見られていませんが、保護の観点からドームの全体挙動のモニタリングが実施されています。また、二〇一七年からイタリア中部地震で被害を受けたトレンティーノ、サン・セヴェリーノ・マルケで教会堂、市民の塔の応急処置後、補強工事中の構造安定性を把握するために、構造ヘルスモニタリングを実施しています。

二〇一二年にイタリア北部地震のあったモデナでは、ユネスコの承認を得て、世界遺産「モデナ大聖堂とグランデ広場」にあるモデナ大聖堂と市民の塔（ギルランディーナ）の構造ヘルスモニタリングと構造解析を実施しており、事後保全から予防保全を試みています（図3）。地震による世界中の人的被害のほとんどは土や石を建築材料とした脆弱な住宅の崩壊によって発生しており、文化財建築のみならず、その対策は地球規模での最重要課題です。

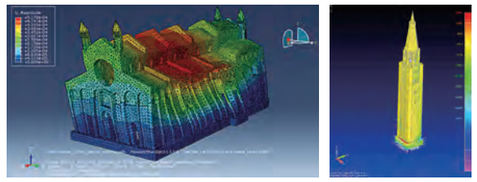


図3　モデナ大聖堂と市民の塔（ギルランディーナ）：モード解析と地震応答解析

筆者略歴

東京大学大学院工学系研究科（博士課程）建築学専攻中退。イタリア、フィレンツェ大学建築学部留学。東京大学より「サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂交差部円蓋の構造特性と架構法に関する研究」で学位取得。長崎大学助手、仙台高専（旧宮城高専）講師を経て、二〇一一年四月から現職。二〇一三年一月より研究科長・学部長。二〇一六年三月から合同会社建築構造技術研究所所長。

国内外の歴史的建造物の調査・診断・実験・解析と構造ヘルスモニタリングが専門。

※USGS：アメリカ地質調査所

文化財保存におけるカビの驚異

——カビが生えやすい日本の気候、いかに文化財のカビ被害を予防するか。

文化財の保存においての最大の難敵はカビ。その被害から逃れるための工夫と戦いの日々を紹介。

独立行政法人国立文化財機構
文化財活用センター
保存担当 研究員
間渕 創（まぶち・はじめ）

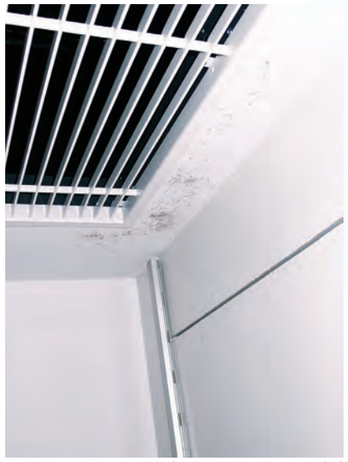
文化財を受け継ぎ、未来へ継承する

有形の文化財は物質である以上、必ず経年により製作当初の状態から変質します。適切に保管し、必要に応じて修理を行わなければ徐々に傷み、当初の材料や情報が失われ、ついには文化財としての価値を失ってしまいます。何百年以上も昔に製作された文化財が現存し、いま我々が目にすることができるのは、先人により文化財が大切に扱われてきたことの証でもあります。また将来の人々が、現在を生きる我々同様に文化財の美しさを感じ、歴史やそこに流れる伝統的な価値観を学べるよう、より良い状態で文化財を継承していく努力が我々に求められています。

文化財へのカビ被害

文化財を未来へ継承していくためには定期的な修理だけでなく、文化財を取り巻く環境から文化財を劣化させる諸要因を除去・軽減し、できるだけ傷まないような環境づくりが必要となります。文化財の劣化要因は様々ありますが、カビによる被害もその一つです。

一般的にいうカビとは、真菌類の一部の糸状菌を指し、これらは胞子によって増殖します。工場などのクリーンルームでもない限りカビの胞子は我々の身の回りのどこにでも存在し空気中に漂っています。例えば夏の屋外の空気1立方メートルあたりには数千個以上のカビの胞子が浮遊しています。この胞子がものの表面に付着し、適度な水分と栄養分があれば発芽し、菌糸のかたまりからなる集落をつくり、ふたたび多量の胞子をつくります。



展示室でも温湿度管理が上手くいかないとカビが発生することがあります

カビ集落が文化財の表面に形成されると、胞子や色素生産により色がつき美観を損なうだけでなく、場合によっては代謝物によって文化財材料が部分的に脆弱化（ぜいじゃくか）するなど、化学的・物理的な劣化が起こる可能性もあり、将来的な文化財の劣化につながるかもしれません。またカビ胞子は数μm（マイクロメートル）（1メートルの百万分の一）と非常に小さく人の目では見えないため、集落を形成しカビ被害が発生してしまってから初めて認識できることになります。しかし一旦発生してしまった文化財のカビによる汚損は完全に除去することが難しく、二度と元の姿に戻らないこともあるため、まずは大発生しないよう予防的に対応することが重要になります。

カビ被害の予防

カビが生育するためには、適度な温度、十分な湿度、栄養分の存在、酸素が必要であり、これらの条件のうちのどれか一つでも欠けると生育することができません。つまりカビ被害を起こさせないためには、これらの要素のうちどれかを文化財の周囲から除去すれば良い訳ですが、文化財の保存と活用の観点から、常に低温や無酸素状態で管理することは現実的ではありませんし、また文化財材料そのものが栄養源にもなるため、結局文化財の保存環境においては湿度のコントロールしかできることはありません。

カビは相対湿度60パーセント以下では生育できないため、博物館や美術館の収蔵庫は年間を通じ概ね50～60パーセントの湿度で保つよう管理されています。とはいえ日本の気候のもと、大きな収蔵庫や展示室を通年淀みなく湿度60パーセント以下に保つことは容易ではありません。大規模な博物館、美術館では、大きな空調機によって収蔵庫や展示室の温度湿度を一定に保つことができますが、中小規模の館ではかなり高いハードルといえます。また空調による温湿度管理には多大なエネルギー消費（コール）＝コストがかかり、施設設備だけでなく予算の面においても各館の事情があります。湿度管理さえできればカビ被害は予防できるとはいえ、現実には多くの困難があります。

カビ被害への対応

温湿度管理が上手くいかず文化財にカビが発生してしまった場合には、除菌や殺菌処理が必要になりますが、当然のことながら文化財を傷めない方法に限られます。被害点数が少ない場合には修理技術者に依頼して除菌・クリーニングをしてもらうことになります。多くの資料に発生してしまった場合など、個別に対応できないときには化学薬剤を使用した燻蒸（くんじょう）が行われることもあります。ただし薬剤の中には文化財材料を変色、退色、腐食、錆、脆弱化させるものもあるため、文化財材料への影響が少ないことが確認されている殺菌燻蒸剤しか使用できません。

除菌や殺菌処理にはそれなりの費用がかかり、また文化財にストレスを与える行為でもあるため、まずはカビ被害の予防が第一です。しかし河川氾濫などの水害によって、保管されていた文化財が避けられず濡れてしまうことがあり、水損した文化財はあっという間に大量のカビが発生します。しかしその除去や殺菌の方法は、文化財の種別や特性、材質、製作技法、経年劣化状態など、様々な要因について検討し適切に選ばなければならないため、それぞれの文化財の研究者や修理技術者の知識、経験がとても重要になります。

水害によって水損した紙資料に発生したカビ

薬剤燻蒸を待つ博物館資料

現状と課題

日本の夏は高温多湿なため、屋外の温湿度環境の影響を受けやすい施設では簡単にカビ被害が発生します。また近年の酷暑では空調機の性能が追いつかず収蔵庫の温湿度が不安定となったり、また光熱費の高騰により空調稼働時間を短縮せざるをえず、適切な温湿度管理が難しいとの声を耳にすることが増えています。また近年は局所的な大雨が降ることもあり、文化財の水損リスクも高まっているのではないかと思われます。文化財のカビ被害を取り巻く状況はこれまで以上に厳しいといえます。

他方、博物館や美術館は社会的な機関として、脱炭素社会の実現に向けた持続可能な文化財の保存と活用が重要な課題となっています。なかでも日本の気候のもとで、安定的な保存環境の維持と消費エネルギーの削減の両立については、カビ被害を予防すること一つとっても容易ではありません。最新の技術や他分野の知見を博物館の環境管理に取り入れていくために、今後様々な学術分野との連携した調査研究を推進していく必要を感じています。

筆者略歴

三重県総合博物館 学芸員を経て二〇一九年より現職。博物館等の保存環境について、特にカビを主とした微生物のモニタリングと制御について研究をおこなう。現職では博物館等の保存環境全般についての相談対応、調査協力、新築・リニューアルにあたっての設計協議などをおこなっている。

オーケストラ ライブラリアンをご存知ですか……。

音を出さない〝音楽家〟でもあり、〝職人〟でもある。それが『オーケストラ ライブラリアン』。さて、その世界は……。

東京藝術大学音楽学部
指揮科助教
小久保 綾子
（こくぼ・あやこ）

オーケストラの仕事

オーケストラの音楽は指揮者や演奏者が一体となり作り上げる芸術ですが、指揮者や演奏者と同じぐらいに熱い想いを抱き、オーケストラの音楽を一緒に作りあげている専門スタッフがいます。

演奏会を生み出す企画制作、オーケストラの魅力や楽団の個性を伝える広報、オーケストラ活動を充実させるパトロネージュ、他にもホールスタッフ、収録、レセプショニストなどたくさんのスタッフが関わっています。

オーケストラの現場にも専門職のスタッフがおり、ステージの管理をするステージマネージャー、奏者やスケジュールの管理をするインスペクター、そして、楽譜の管理をするライブラリアン。

その中から今回は「ライブラリアン」の仕事の一部をご紹介したいと思います。

ベートーヴェン「交響曲第９番」のスコア（総譜）

パート譜配布の様子

ライブラリアンの仕事

ライブラリアンはオーケストラの中枢にいて仕事も多岐に渡ります。中でも、楽譜の準備・楽譜の管理は特に専門的な仕事です。文房具一つ、製本テープ一本をとってもこだわりを持ち、楽譜を劣化させないよう、保存状態を良くすることに神経を尖らせながら作業にあたっています。

演奏会で使用した楽譜を管理することは、その楽団・団体の歴史や伝統の財産管理をすることであり、重要任務であるとともに、奏者同様「音楽作品を次世代に継承する」欠かせない職となります。一冊の楽譜の中には歴代奏者の様々な書き込みがあり、そしてそれが各オーケストラの歴史となります。

ライブラリアンの仕事は他にも、「演奏会の企画やプログラミングにも関わる楽器編成の調査」「楽曲情報の入手」「著作権申請」「演奏会のチラシやプログラムなど広報物において楽曲に関する情報確認」など、挙げればきりがありません。その業務も多く一人では対応できないので、私の所属する藝大フィルハーモニア管弦楽団（以下、藝大フィル）ではアシスタントさんの力が必須となり、現在は二人チームでライブラリ運営をしています。

企画からコンサートまで

公演プログラムが確定したら、まず指揮者に使用楽譜（出版社）の相談をします。出版社や校訂者によって、強弱、アーティキュレーション（フレーズに表情をつけるための様々な記号）、音やリズムなども含めて譜面内容も変わってきますが、実はこの〝指揮者への相談〟こそがライブラリアンにとって一番緊張する瞬間です。

もし新譜を使用することになれば、スコアと届いたばかりの新品のパート譜を落丁等不備がないか隅々までチェックし、そして指揮者からの指示やボウイング（弓の上げ下げ）など真っ新な楽譜に全て書き込んでいくという気の遠くなるような作業があります。

レンタル楽譜の場合は、代理店を通して原出版社とやり取りをしながら楽譜を取り寄せますが、海外でも使用されている楽譜なので、「海外ならでは…」の中身や楽譜の状態もあり、念入りに確認しなければなりません。

ボウイング写しの様子

楽譜所蔵の楽譜の場合であっても、年代物の古い楽譜や多く使い込まれた楽譜もあり、補修も必要なほどで破損のないよう慎重に作業をしていきます。

このようにどの楽譜も、リハーサルで演奏者が音楽作りに専念できるよう事前準備をしますが、演奏に支障のないよう楽譜をめくりやすく工夫を施すなどを含め、その準備に一ヵ月かかることもあります（写真①、②）。

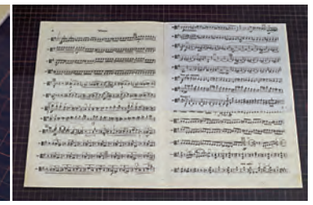
ライブラリアンの演奏会業務では〝事前準備〟が主な仕事ですが、リハーサルや本番にも立ち合います。

パート譜や指揮者のスコア管理、各曲の演奏時間の計測も行うなど公演進行にも関わります。

特に指揮者から大切なスコアを預かり、ステージ上の指揮者譜面台に置くその瞬間は、お客様の前でステージ上にライブラリアンが現れる唯一の時間です！ 機会がありましたら、その姿を是非ご覧ください（写真③）。

それらの仕事の中で、ライブラリアンの特権と言えるべき仕事があります。藝大フィルでは本学作曲科教員や学生の「世界初演」をすることがありますが、その際、書き上がったばかりの譜面を手に取り、いち早く名作に出会える瞬間は、私たちライブラリアンにとって大きな喜びと誇りとなります。

①テープや糊で補修



②めくりをつけたパート譜

演奏時間を計測

③「良い演奏会になりますように」と願いを込めて…

楽譜のこぼれ話

レンタル楽譜ですが、実はプロセット、アマチュアセットと二種類あります。私は藝大フィルのライブラリアンと東京藝大シンフォニーオーケストラ（学生オーケストラ）のライブラリ指導も兼任しているため、両方のセットを扱っています。

そして特に、海外手配でレンタルや購入をするとき、出版社も〝人〟があっての作業となるので、ごく稀にですが、楽譜の表紙は合っているのに中身は違う曲が印刷されていることがあり、また、出荷が遅れることもあります。発注してから八ヵ月も待たされた時は、リハーサルや本番に間に合うかどうか心配が尽きず、まだ到着しない状況に生きた心地がしませんでした。

ようやく手元に届いて、そしてこの目で確かめて、やっと安心することができるのです。

ライブラリの仕事に出会うまで

私は学生時代に作曲を学んでいたため、オーケストラの作品も良く聞き、多くのスコアを手に取っていました。

次第に自分の中でオーケストラの存在が大きくなりその魅力にはまりました。そして演奏会に通う中、曲間にスーツを着た人達の姿が目に飛び込んできました。

その後、スーツを着た人が「オーケストラ ライブラリアン」であったことを知り、その仕事を手伝う中で尊い仕事を目の当たりにし運命を感じ、また、奏者と共に演奏を紡ぎ繋ぐ仕事に憧れを抱き、今、その職に携わる自分がいます。

プロフェッショナルなライブラリアンを目指して

藝大フィルハーモニア管弦楽団は日本オーケストラ連盟の準会員に加盟しています。プロオーケストラのライブラリアンとして他オーケストラのライブラリアンと情報交換や連携することもあり、年一回全国の「ライブラリアン会議」での交流もあります。そこでは素晴らしいライブラリアンの先輩方から教えを受け、刺激もいただきながら意見交換をしています。

どのオーケストラのライブラリアンも大変多くのご苦労をする中、〝音を出さないまでも〟指揮者、演奏者と一体となって音楽を届け、その歴史と伝統を守りつつ、次の世代へと作品と楽譜を継承し新たな歴史を刻んでいくことに誇りを持っています。私もその使命と責任を胸に、これからもこの仕事と向き合っていきたいと思います。

今後、演奏会にいらっしゃる皆様に、少し特殊な〝音楽家〟がいることも知っていただけたら幸いです。

筆者略歴

桐朋学園大学音楽学部作曲専攻卒業、同研究科修了。作曲を円山利絵、香月修、新実徳英、ピアノを星野安彦、三輪郁の各氏に師事。東京都交響楽団演奏運営チーム、霧島国際音楽祭、草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティヴァル、サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン等のスタッフを経て、現在、東京藝術大学音楽学部指揮科助教、藝大フィルハーモニア管弦楽団事務局次長及びチーフ・ライブラリアン。

役員等のご紹介

当財団の役員等を左記のとおりご紹介します。

令和五年十月現在　敬称略／五十音順

◎理　事（十名）

理事長
澤　和樹　東京藝術大学　名誉教授・顧問

副理事長
青柳　正規　学校法人 多摩美術大学　理事長

専務理事
小宮　浩　当財団　専務理事

理事
石井　直（株）電通　相談役
伊東信一郎　ＡＮＡホールディングス（株）特別顧問
滝　久雄（株）ＮＫＢ・（株）ぐるなび取締役会長・創業者
谷川　史郎（公財）日本交通文化協会理事長
西浦　忠輝　ＮＴＴアーバンソリューションズ（株）社外取締役
野口　昇（特非）文化財保存支援機構副理事長
籔内佐斗司（公社）日本ユネスコ協会連盟顧問
西巻　茂　東京藝術大学　名誉教授

◎監　事（二名）
有吉　伸人　税理士
横田　尤孝　弁護士

◎評議員（十九名）
上野憲一郎（株）ＮＨＫエンタープライズ代表取締役社長
浦井　正明（株）三越伊勢丹　美術営業部長
大杉　栄嗣　寛永寺　住職
是枝　伸彦　大塚オーミ陶業（株）代表取締役社長
酒井　裕（株）精養軒　顧問
佐藤　一郎　東北生活文化大学　学長
白井　勝也（株）ヒーローズ　代表取締役社長
高橋　明也　東京都美術館　館長
高橋　司（公財）鹿島美術財団代表理事専務理事
富田　淳　東京国立博物館　副館長
永井　浩二　野村証券（株）取締役会長
長井　大地　読売新聞東京本社　事業局事業戦略センター長
長本　裕司（株）髙島屋　ＭＤ本部　美術部長
野間　省伸（株）講談社　代表取締役社長
日比野克彦　東京藝術大学　学長
福田　豊　恩賜上野動物園　園長
堀越　礼子（株）朝日新聞社　取締役西日本統括／大阪本社代表文化事業エグゼクティブプロデューサー
門司健次郎　クラマスター協会　名誉会長

◎顧　問（一名）
宮廻　正明　東京藝術大学　名誉教授

ご寄付を頂きました皆様

◎令和5年6月1日から9月30日まで　敬称略／順不同

☆寄付金

○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
野生司香雪画伯顕彰会
国王神社
光明寺
㈱カフウテイ
ヤフーネット募金（88名様）

お願い

⑴尼門跡寺院文化財保存修復支援事業のための募金のお願い

尼門跡寺院の文化財保存修復事業は、故平山郁夫元理事長が上皇后から依頼を受けて実施しているものであり、平成十二年度から開始され平成二十九年度までに二十九件の文化財を修復しています。

今回は、中世日本研究所（京都）、中世日本研究所財団（ニューヨーク）が中心となり、日本だけでなく世界から寄付を募り実施しております。

⑵昭憲皇太后大礼服研究修復復元支援事業のための募金のお願い

大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業などを表象する大礼服であり、現存する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装です。貴重な歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産として文化財的価値が高いものです。

経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分（スカート）の復元のため、令和元年度から令和五年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しております。

＊

募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

※郵便振替の場合、通信欄に「尼門跡」「大礼服」とそれぞれお書き下さい。

＊

銀行振込（①銀行名②口座番号③名義）
①三井住友銀行　上野支店
②普通　６６１５５００
③（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

（電話：〇三・五六八五・二三二一）

郵便振替（①振替番号②加入者名）
①００１６０・５・１２３１９
②（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

◎賛助会員で入会並びにご寄付（前記のご寄付を除く）のお願い

《賛助会員》

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員　年額（1口）　50万円
個人正会員　年額（1口）　1万円
維持会員　年額（1口）　10万円

《ご寄付》

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介します。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。

（電話：〇三・五六八五・二三二一）

⑴銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

（銀行振込）
○三井住友銀行　上野支店
普通　６６１５５００
○みずほ銀行　上野支店
普通　４４７８５７６
○三菱ＵＦＪ銀行　上野中央支店
普通　０７９６３８４

（郵便振替）
００１６０・５・１２３１９

※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも（公財）文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

⑵インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、クレジットカード又はTポイントによるご寄付（募金）を受け付けています。

←○「ＹＡＨＯＯ！ＪＡＰＡＮネット募金」
←○「文化・スポーツ」
←○「文化財保存修復支援募金」
←○「クレジットカード」又は「Tポイント」を選択
←○ 募　金

⑶特定寄付信託

信託した金銭を運用収益とともに寄付するものです。当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信託に関して契約しています。

詳細は左記にお問い合わせ下さい。

みずほ信託銀行
（電話：〇三・三二七四・九二〇三）

⑷遺贈

「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付を承っております。

「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部又はすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。

財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。

遺贈をご検討いただく際は、お電話かメールにて当財団までご相談下さい。

⑸商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QUOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。

ため、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

お送りいただく場合は、当財団事務局宛てに封書にてご郵送下さい。

＊　＊　＊　＊　＊

●税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金（募金）には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせ下さい。

＊　＊　＊　＊　＊

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

（電話：〇三・五六八五・二三二一）

遺贈寄付相談窓口のお知らせ

当財団はREADYFOR株式会社と連携し、遺贈によるご寄付や相続財産のご寄付に関するご相談を承っております。

遺贈や相続に関してご質問やご相談がございます場合は、お気軽に以下の宛先までご連絡下さい。

※レディーフォー遺贈寄付サポート窓口（https://izoreadyfor.jp/）は、遺贈に関するご相談を受ける窓口で、何度でも無料でご相談できます。

寄付のご意向や詳細が決まっていない方でもお気軽にご相談下さい。

READYFOR社ではこれまで約2万件の社会活動を支援してきています。その経験を活かし、あなたの想いが込められた大切な財産を、想いをともにする活動へ届けるお手伝いをいたします。

〈お電話でのご相談・資料請求〉
レディーフォー遺贈寄付サポート窓口
〇一二〇・九四八・三一三（通話料無料）

助成金の申請に関するお知らせ

令和六年度の助成事業に係る助成金の申請について、左記のとおり受付を行う予定ですのでお知らせします。なお、詳細は、当財団ホームページ（助成金のご案内）でご確認下さい。

【申請時期（予定）】
例年実施の文化財保護、芸術研究に係る助成事業
令和六年一月十日～二月末日
受付時間：平日10時～17時（年末年始を除く）

今号の表紙　平山郁夫

月光ブルーモスク　イスタンブール　2001年

ボスポラス海峡をはさんでヨーロッパとアジアを結ぶイスタンブールは、トルコ最大の都市であり、歴史と文化の街（まち）でもある。市中いたる所に残る多くの遺跡があるゆえ、この地域はユネスコの世界遺産に登録されている。

多くの歴史的建造物の中にあって、象徴的な存在の一つがスルタンアフメト・モスクであろうか。と、言うよりもブルーモスクとよんだ方が通りがよい。内部がイズニク製の青い装飾タイルで彩られていることから、この名が付いたとのこと。

十七世紀、オスマン帝国の第十四代スルタン・アフメトⅠ世による建造のブルーモスクを平山画伯は大変お気に入りで、院展に出品した大作「晧月（こうげつ）ブルーモスク」をはじめ、月光をモチーフにして多くの作品を残している。この作品もその一つ。色あざやかなイズニックタイルに負けない平山ブルーの世界の中に世界遺産のモスクを置いている。

月光ブルーモスク　イスタンブール　2001年

編集後記

今夏は超異常とも言える猛暑日の連続でした。皆さまにおかれましてはお変わりございませんか。コロナ騒動も一段落した雰囲気ではありますが、全く気の休まる日がない感じです。

異常気象の原因は地球の温暖化に尽きる、と思います。私たちは今後ますます環境問題を注視していく義務があるのではないでしょうか。この時季、ニュースに秋の味覚が取り上げられますが、キノコのたぐいもサンマも胃袋をくすぐるような話題として登場してこないことは、さびしいかぎりです。

さて、新型コロナウイルス感染症のため、中断しておりました「日中韓文化交流フォーラム」が再開されます。今回は韓国の仁川（インチョン）です。詳細については、明年の新春号で皆さまにご報告できることと思います。

広報誌「絲綢之路（しちゅうのみち）」（シルクロード）
二〇二三年　秋号　通巻第一〇三号
●
★令和五年十月二十日発行
★編集発行／公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団　事務局©
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二－五十
電　話（〇三）五六八五－二三二一
ＦＡＸ（〇三）五六八五－五二二五
URL:https://www.bunkazai.or.jp/
E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp
★印刷　篠田印刷株式会社